

「2025 年日本国際博覧会 夢洲第1交通ターミナル運行情報サイネージ等 管理システムサービス提供業務」仕様書	
必須事項(項目)	内容
1. 契約の方法種類	契約は、総価契約による「委託契約」とする。
2. 業務概要	公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（以下、「本協会」という。）は、2025 年日本国際博覧会（以下、万博という。）開催期間中における来場者の安全かつ円滑な移動の実現を図るため、主要鉄道ターミナルからの駅シャトルバス、会場外駐車場からの P & R バス等が発着する夢洲第 1 交通ターミナルに対し、各種設備の一元管理が可能な管理システムを導入する。
3. 総則	<p>(1) 本仕様書は、「2025 年日本国際博覧会 夢洲第 1 交通ターミナル運行情報サイネージ等管理システムサービス提供業務」（以下「本業務」という）に適用する。</p> <p>(2) 博覧会協会からの入手資料や業務で作成した資料等、業務により知り得た情報の一切は、業務完了の時点を持って、返却すること。ただし、博覧会協会から許可を得た場合はこれに該当しない。</p> <p>(3) 受託者は、作業に際し生じる関係諸官庁等と協調を保ち博覧会担当者の指示を受けて正確かつ誠実に作業を行うこと。また、諸手続きに必要な資料を調整・準備すること。</p> <p>(4) 受託者は、作業中に生じた諸事故に対してその責任を負い、事故が発生したり、損害賠償の要求があったりしても、博覧会協会はその責任を負わないものとし、受託者において処理すること。</p> <p>(5) 作業が完了すれば、直ちに完成届と成果品を提出して博覧会協会の検査を受けること。</p> <p>(6) 受託者は本協会が提供する各種ガイドラインを遵守すること。</p>
4. 契約期間	<p>契約締結日翌日から 2025 年 12 月 31 日までとする。</p> <p>但し、本業務は会期終了後の対応が可能な形を配慮しつつ、2025 年 10 月 31 日までの利用とする前提で費用を提示すること。</p>
5. 履行場所	<p>夢洲第 1 交通ターミナル</p> <p>所在地：大阪市此花区夢洲</p> <p>(3-2. 仕様書別紙 1_位置図参照)</p>
6. 業務内容	<p>本業務は、2020 年 12 月に公表した“2025 年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)基本計画を踏まえ、本協会の取組みを推進するサービスを提供すること。</p> <p>なお、本業務の仕様詳細を、「仕様書別紙 2_詳細仕様書」に記述することから、熟読すること。</p> <p>1. 契約期間及びスケジュール</p> <p>(1) 契約期間 契約締結後から、2025 年 12 月 31 日までとする。</p> <p>(2) 開発期間(想定) 契約締結後から、2024 年 6 月 30 日までとする。</p> <p>(3) 受入テスト期間(想定)</p>

	<p>2024年7月1日から2024年9月30日までとする。</p> <p>(4) サービス利用期間(想定)</p> <p>本サービスを利用し、夢洲第1交通ターミナルの管理を行う期間は、2024年10月1日から2025年10月31日までとする。ただし、ターミナルの整備工事が完了した後に設置を行う機器及び関連するシステムについては、当該機器の設置後に運用を開始するものとする。</p> <p>2. システムサービスの設計・開発およびサービス提供体制</p> <p>(1) システム設計・開発実施計画書</p> <p>契約締結後、2週間以内にシステム設計・開発期間に実施するスケジュールや実施項目等をまとめた「システム設計・開発実施計画書」を作成し、本協会の承認を得ること。</p> <p>(2) 導入・開発</p> <p>ア 開発方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本システムは、他システムとの連携を考慮し、オープン化された標準的手法や標準化された製品、ソフトウェア等を用い、機能拡張性及び保守性の高いサービスとすること。 ・システム設計・開発に際しては、本協会がシステムを保有せず受託者のシステムサービスを利用する形式を前提とし、本協会にデータセンターの利用料等、ファシリティに係る費用が発生しないこと。 ・開発作業に必要な設備（サーバ、端末、ネットワーク機器、開発用ソフトウェア等）については受託者において準備すること。 ・機能追加やパッチの適用を行う際は、本番環境に影響が出ないように留意するとともに、必要に応じて本番環境とは別環境にて試験を行うこと。 ・障害につながりうる事象を早期に発見できる監視機能、プログラムとすること。 <p>イ 開発管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本システムの開発・サービスの提供については、効率的なシステム導入を図るためのプロジェクト管理を行うこと。 <p>ウ 研修環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、本番環境とは別に操作研修を行うための研修環境を用意すること。 ・研修環境は、研修期間及びサービス提供期間中は常時利用できるものとし、利用者が操作習熟のため自由に入力・作業等ができること。 <p>エ テスト要件</p> <p>(ア) テスト実施計画書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールや実施項目など、テストで実施する内容をまとめた「テスト実施計画書」を作成し、本協会の承認を得ること。 <p>(イ) テスト方法</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・受託者は、テスト実施計画書に基づき、必要なテストを主体的に実施すること ・受入テストは、実際の本番環境と同じ状態の検証環境を準備し実施すること ・各テストにおいて発生したエラーは、復旧作業及び原因の解明、対策を行い本協会へ報告すること。性能面での問題が発生した場合にはチューニングを施すこと ・使用するテストデータは、受託者で準備すること <p>(ウ) 他システムとの連携テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本協会にて別途調達するシステムとの連携が必要な場合には、各々の事業者と調整し連携テストを実施すること。 <p>オ 受入テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムの担当責任者及び実際の利用者における受入テストを実施できること。 ・受入テスト期間中における問い合わせ対応を実施すること。対応手段・時間等の条件について明確にして提案すること。 ・受入テストにおいて判明した課題は、サービス利用期間の開始までに対策を行うこと。ただし、本番環境のリリースに影響がない部分については、本協会に完了時期を明確に提示したうえで、リリース後の修正としてもかまわない。 <p>カ 定例会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発を円滑に実施できるよう必要な会議を開催すること。 <p>キ マニュアルの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムのマニュアルを作成し、電子データで提供すること。 ・マニュアルの種類は、運用を円滑に行うために必要と思われるものに応じて準備すること。 <p>ク FAQ の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して、本サービスの利用に関する FAQ を作成し、電子データで提供すること。 <p>ケ 利用者からの問い合わせに対応するサポート窓口の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託者において、本システム運用期間中に想定される利用者等からの様々な問合せ等に対応できる体制を構築・運用すること。 <p>(3) システムの機能要件等</p> <p>ア 夢洲第1交通ターミナル管理システム</p> <p>(ア) 夢洲第1交通ターミナル全体への情報発信機能（サイネージ・アプリ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢洲第1交通ターミナル内の全バス乗降場の状況（「行先」「乗り場」「遅れの有無」など）を俯瞰的に確認できるコンテンツや WEB ページ等を作成し、来場者に発信
--	--

	<p>する。発信の方法としては、西ゲート前に設置するターミナル全体情報発信用サイネージや協会が別途調達する万博アプリ（仮称）を想定している。</p> <p>(イ) 各バス乗降場の案内サイネージ及び音声案内管理機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス乗降場利用者に対し、バスの運行に係る情報をサイネージ及び音声案内により十分にわかりやすく提供できること。音声案内の内容は、基本的にテキスト形式で準備され、合成音声により放送されることを想定している。 ・乗降場サイネージ及び音声案内のコンテンツ管理システムはクラウド上で稼働することを想定している。 ・時刻表や遅れ情報などについては、バス運行事業者から情報を取得の上、最新情報を更新することを想定している。 ・ユニバーサルデザインの観点から、乗降場サイネージ及び音声案内の内容は、可能な限り同程度であることが望ましい ・運行状況や来場者数などの状況に応じて、乗降場に設置される臨時放送用マイクを用いて、任意の臨時放送を割り込ませることができること。 ・臨時放送の放送範囲を、個別の乗降場、複数の乗降場（同じ行先の乗降場グループ）、乗降場全体から選択することができること。 ・音声案内管理システムの自動放送では対応できない場合や、肉声で注意喚起を促したい場合などを想定している。 <p>※バスの運行に係る情報の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗降場番号 ・乗り場、降り場の区別 ・行先 ・時刻表 ・先発時刻 ・次発時刻 ・遅れ、欠便の有無 ・車両接近、発車等警告メッセージ ・交通広告 ・その他メッセージ <p>(ウ) 各バス乗降場及び夢洲第1交通ターミナル内一時待機場の満空管理機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢洲第1交通ターミナル内に配置される各バス乗降場及び一時待機場内にバスが存在するかどうかを検知し、乗降場及び一時待機場の俯瞰的な満空状況把握、円滑に夢洲第1交通ターミナル管理担当者に伝えることができること。 <p>イ 各バス乗降場用途及び発着ダイヤ管理表作成業務</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・博覧会開催前までに、バス運行事業者の意見を考慮した、バス運行上無理のない乗降場用途管理表及び発着ダイヤ管理表を作成すること。 <p>(ア) 乗降場用途管理表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗降場用途管理表については、各乗降場に対し「乗り場/降り場のどちらに使用するか」、「行先」「参照すべき発着ダイヤ」を定めることができること。 ・博覧協会が想定する「混雑レベル（レベル１～３の３段階程度）」及び時間帯（朝、昼、夕の３パターン程度）の組み合わせ毎に、最適となる乗降場用途を設定することを想定している。 ・乗降場用途管理表上の「行先」「乗り場/降り場のどちらに使用するか」と乗降場サイネージ及び音声案内の「のりば」「おりば」「行先」が円滑に連動できるような表とすること。 <p>(イ) 発着ダイヤ管理表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発着ダイヤ管理表については、夢洲交通ターミナルへの到着時刻、夢洲交通ターミナルからの発車時刻を定めたものとする。発着ダイヤ管理表については、各バス運行事業者から提供される運行ダイヤに基づいて、作成することを想定している。 ・発着ダイヤ管理表と乗降場サイネージ及び音声案内の「時刻表」「先発時刻」「次発時刻」が円滑に連動できるような表とすること。 <p>ウ 他システムとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本システムと他システムとの API 連携等の情報連携にあたり、必要な機能要件の整理、本システムの改修が生じる可能性がある ・連携の可能性があるシステムは以下が想定される。 <ul style="list-style-type: none"> ・万博アプリ（仮称） ・第三者が提供する MaaS アプリ ・駅シャトルバス、P&R バスの運行管理システム ・監視カメラ管理システム <p>(4) 機器・設備要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本サービスに関する機器・設備は以下の通りを想定しており、屋外に設置するサイネージや音声案内等の端末設備に要する電源及び LAN 等通信回線の手配については協会側で実施する。配線用埋設管等の設計については先行して進めるが、詳細な配線計画については契約後受託者より提案いただく想定としている。 ・また屋外に設置する機器・設備は、開催場所が沿岸部であることや期間中の天候に対応することから、適切な防水能力があり、強風・突風などに耐えうる機器・設備（筐体含む）を提案すること。 <p>ア 夢洲第１交通ターミナル全体への情報発信機器</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・夢洲第1交通ターミナル全体への情報発信に必要な機器を用意、接続し運用体制を整えること。 ・ターミナル全体情報発信用サイネージ画面は西ゲート前に1基設置することを想定している。 ・設置方法は地上自立設置型を想定し、十分に見やすい明るさ、大きさを備えたものとするほか、来場者の動線を阻害しない配置とすることを想定している。 ・各乗降場の情報の俯瞰的な表示にあたっては、複数画面を切り替えることも可とする。
イ	<p>各バス乗降場に必要なサイネージ機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各バス乗降場に必要なサイネージ機器を用意、接続し運用体制を整えること。 ・乗降場用サイネージ画面は各乗降場に1基ずつ、計42基設置することを想定している。 ・設置方法は地上設置型、上屋吊下型どちらでも構わないが、十分に見やすい明るさ、大きさを備えたものとするほか、来場者の動線を阻害しない配置とすることを想定している。
ウ	<p>各バス乗降場に必要な放送機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各バス乗降場に必要な放送機器を用意、接続し運用体制を整えること ・音声案内装置は指向性スピーカーを各乗降場に1基ずつ、計42基設置するほか、臨時放送用マイクも複数機設置することを想定している。 ・指向性スピーカーの設置方法は上屋吊下、臨時放送用マイクの設置方法は上屋柱への据え付けを想定している。
エ	<p>各バス乗降場及び一時待機場に必要なバス検知機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各バス乗降場及び一時待機場に必要なバス検知機器を用意、接続し運用体制を整えること。 ・バスの存在検知にあたっては、現地の照明柱やバス乗降場上屋を活用してセンサー機器、カメラを設置することは可能であるが、基礎を伴うような専用柱の設置は困難と想定している。 ・バス乗降場は42バース、一時待機場は61バースを想定している。
オ	<p>機器等の回収・撤去・廃棄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本システムの調達に際しては、本協会がシステムを保有せず受託者のシステムサービスを利用する形式を前提とする。本サービス終了時には、全てのデータ、機器等の回収・撤去・廃棄を受託者において完了すること
(5)	非機能対応
ア	<p>多言語対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本サービスは、多言語（日、英）に対応すること。
イ	<p>ウェブアクセシビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本サービスは、ウェブアクセシビリティ規格「JIS X

	<p>8341-3:2016」に準拠することが望ましい。</p> <p>ウ サービス稼働時間等</p> <p>(ア) サービス稼働時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本システムは、24 時間 365 日の稼働を基本とする。ただし、システムの運用は 6 時～24 時の 18 時間を想定している。 ・サービス稼働率 99.9%を達成するための対策を講ずることとし、具体的な内容について提案すること。 ・計画停止は、利用者の影響の少ない時間帯に行うこと。また、計画停止を行う場合、1 ヶ月以上前までに本協会に保守計画の時期、内容を通知、説明するとともに、実施にあたっては事前に本協会と調整を行うこと。 ・緊急停止が必要となった場合、速やかに本協会に報告するとともに、実施にあたっては事前に本協会と調整を行うこと。 ・機能毎に、稼働時間短縮によりコスト低減が図れるのであれば提案すること。 <p>(イ) 利用端末要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針に従い、本システム運用に必要な端末等を選択し、すべての OS、ブラウザのパッチ適用及びバージョンアップについて、適用の可否をテストしたうえで、本協会の了承を得て対応を行うこと。 <p>(ウ) ネットワーク要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムが要求する性能要件とセキュリティを考慮の上、最適なネットワークを利用すること。 <p>(エ) 性能要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載の要件をふまえて十分な性能を確保すること。また、急激なアクセス増により十分な性能が確保できなくなった場合又は確保できなくなることが見込まれる場合には、早急にサーバやネットワーク帯域を増強するなど業務に支障を与えないよう柔軟に対応すること。 <p>(6) 運用保守サービス要件</p> <p>ア 運用保守計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本サービスの「運用保守計画書」を提示することとし、総合テスト終了までに本協会の承認を得ること <p>イ サービス監視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託者において、24 時間 365 日監視すること。監視対象及び内容については本協会と協議し決定すること。 <p>ウ 障害管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス監視において、障害につながる事象及び障害を検知した場合、速やかに本協会に連絡のうえ必要な対策を講じること。また、障害が起こっていることが利用者から認識できるようにすること。なお、障害発生前後の利用状況を確認するとともに、障害復旧後に再発防止策を含めた障害報告を本協会に実施すること。
--	---

	<p>エ 障害復旧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害復旧については、障害が発生した機器・ネットワークの重要度について別途本協会と定め、その期間内に復旧完了する体制を構築すること。 <p>オ ログ管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託者において、本サービスの稼働状況、利用状況等のログを収集すること。収集対象、方法、単位や間隔、保管期間については本サービス利用要件を踏まえ最適な内容を提案すること。 <p>カ バックアップ管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本サービス及びデータに関し常時バックアップを行うこと。障害時においては、バックアップデータを用いて復旧できること。 <p>キ ドキュメント管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプデスクへの問い合わせ内容等をふまえ、同一の問合せを減らすよう定期的にマニュアル及び FAQ の改訂を実施すること。
7. 成果品	<p>本協会が想定する成果物は次のとおりである。契約後、提出方法及び納期については協議することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム設計・開発実施計画書（契約締結後、2 週間以内） ・総合テスト計画書、テスト結果報告書及びエビデンス（出力結果の画面ハードコピー等） ・本システムマニュアル及び FAQ ・システム管理者マニュアル及び FAQ ・研修用マニュアル（研修実施日まで） ・各種統計データ分析結果 ・環境構築業務完了報告書 ・施工計画書 ・完成図書 ・システム利用実績報告書・業務完了報告書・稼働状況報告書 ・本システム終了時手続きデータや各種情報資産 ・本システム終了時にデータが確実に廃棄されたことを証明するエビデンス（破壊・廃棄報告書、破壊、廃棄証明書） ・会議・打合せ議事録 ・その他、本協会と受託者において、別途協議して定めたもの
8. 貸与品	<p>本業務に必要な本協会所有の関係資料は、契約後、必要に応じて貸与する。</p>
9. その他	<p>1. 疑義</p> <p>本協会は業務完了後においても疑義、不明箇所、その他設計監理上の質問等に対して、その都度協議を求めることができるものとし、受託者は誠意を持って協議に応じ、その質問等に答えること。</p> <p>2. 「瑕疵」の補正</p> <p>業務の完了後、設計内容に「瑕疵」が発見された時は、協会の請求により受託者は速やかに自己の負担で補正すること。</p>

	<p>3. 秘密の保持</p> <p>受託者は業務上知りえた秘密を他人に漏らしてはならない。</p>
--	--